

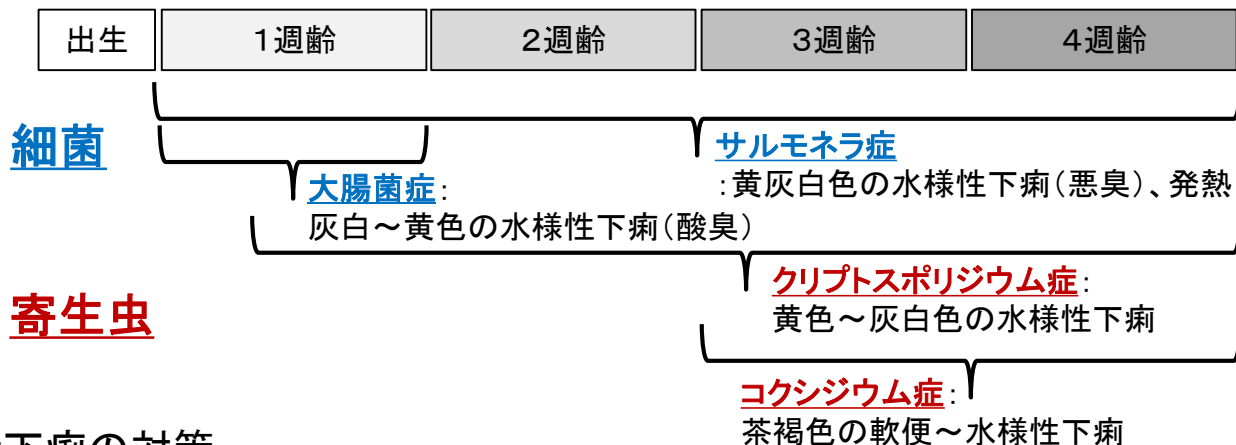


子牛の下痢の予防対策をしましょう

春の暖かくて過ごしやすい期間があつという間に過ぎて、昼間は夏日となる日が多くなってきました。例年通り、6月上旬には梅雨入りしそうです。

家畜の病気を考えると、冬場は**ウイルスが原因の子牛の下痢**が発生しやすい時期ですが、気温や湿度が上昇するこれからの季節は、**細菌**や**寄生虫が原因の下痢**に注意が必要です。子牛の下痢は発症後の経過が長引くと発育不良となり、販売価格への影響が懸念されます。また、最悪の場合は死亡に至る可能性もあることから、日頃の予防が大切です。

細菌・寄生虫による下痢が発症しやすい時期



下痢の対策

○病気にかかりにくい健康な子牛を育てましょう

- ・母牛へのワクチン接種、分娩前後の適切な管理
- ・子牛への初乳の給与
- ・暑さや畜舎の換気不足を防止して子牛へのストレスを減らす



○農場への病原体の侵入防止

農場内へ下痢の原因となる病原体を持ち込まないようにしましょう

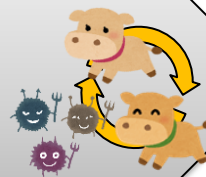
- ・農場に出入りする人と車両の消毒、着衣の交換
- ・畜舎での長靴の交換、踏込消毒槽の設置
- ・病原体を媒介する野鳥やネズミなどの侵入対策



○農場内での感染防止

下痢が発生した場合、他の子牛へ広がらないようにしましょう

- ・器具等の洗浄・消毒、使い分けや作業順序の変更
- ・下痢子牛が、健康子牛と触れ合わないようにしましょう
- ・重症化、感染拡大する前に発見し、獣医師による適切な治療を受けましょう



九州で初めてアフリカ豚熱の発生を想定した実地研修が行われました

5月22、23日に佐賀県でアフリカ豚熱に関する実地研修等が行われ、当所からも職員が参加しました。本病は、東アジアを含め世界的に感染が拡大しており、日本への侵入リスクも極めて高い状態が続いています。本病が日本の野生イノシシで確認された場合、まん延防止のため、死体を直ちに排除する等の防疫措置が必要となります。

このため、本病発生前に具体的な対応の検討と準備を目的として九州各県の関係者が参加し、研修及び情報交換等を行いました。

本病ウイルスは、物や人に付着して侵入する恐れがあります。畜産関係者の皆様におかれましては、海外からの郵便物の取扱いや海外渡航時の注意事項に御留意の上、ウイルスの国内侵入防止に引続き御協力をお願いします。

アフリカ豚熱ウイルスの侵入を防ぐためのお願い

侵入経路 ①

肉類に付着

肉の入った食品を国内に持ち込まない

肉の入った食品を野外に捨てない

国内持ち込み禁止

国外放棄禁止

侵入経路 ②

人に付着

海外では

空海港では 指示に従って消毒

国内では

6月1日は「牛乳の日」、6月は「牛乳月間」です



国連食糧農業機関（FAO）は、牛乳に対する関心を高めると同時に、酪農・乳業の仕事を多くの方に知ってもらうことを目的として、6月1日を「世界牛乳の日（World Milk Day）」としました。日本でも日本酪農乳業協会（現・一般社団法人Jミルク）が6月1日を「牛乳の日」、6月を「牛乳月間」と定めています。

牛乳はカルシウムをはじめ、たんぱく質やビタミン類などたくさんの栄養素がバランスよく含まれる食品です。この機会に、普段の食事に意識して取り入れてみてはいかがでしょうか。



牛乳の日・牛乳月間について（HP）

近隣諸国における悪性伝染病発生情報

病名	型	発生地（国）	畜種	発生年月日
高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）	H5N1	インド	家きん	令和6年4月21日
		中国	家きん	令和6年5月11日
		韓国	肉用あひる	令和6年5月23日
		台湾	家きん	令和6年4月～5月
アフリカ豚熱（ASF）		韓国	豚	令和6年5月21日
			野生いのしし（43）	令和6年4月～5月

令和6年（2024年）6月1日現在



毎月20日はくまもと家畜防疫の日

定期的な消毒を実施しましょう！

